

## 第4四半期研修に向けた改善事項（案）

	検討課題	第3四半期での課題・指摘事項	対処方針（案）	第4四半期の研修への反映（案）
1	カリキュラム・講義内容	<p>● 追加すべきテーマをできる限り実施する。</p> <p><b>検討会</b> 火山、都市防災、予防、WS運営方法、プレゼン方法等</p> <p><b>受講生</b> (※2人以上から同様 (or 類似) の回答のあったテーマ)</p> <p>総合：避難所運営</p> <p>中堅：マスコミ対応、防災訓練、住民への情報伝達、災害対策本部演習、災害対策基本法、情報システム（自治体通信網）、防災気象情報の見方、国の災害対応</p> <p>幹部：各種警報と避難勧告、災害対応能力（災害対応経験者）</p> <p>一般：災害時要援護者、DIG 演習、災害図上訓練、災害対策本部の運営、受講生同士の意見・情報交換</p>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研修期間は限られ、多様な要望の全てに応えることは不可能。</li> <li>○ 第4四半期の講師依頼を早期に開始する必要がある、大幅な見直しは困難。次年度のカリキュラム設計時に反映する。</li> <li>○ ただし、要望が強く、可能なものは第4四半期のカリキュラムを一部変更する。</li> </ul>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受講生からの要望が強いテーマなどについては、重複テーマのために除外する講座に新たなテーマを割り当てるなどして、カリキュラムを一部変更する。</li> </ul>
		<p>● 「講義」と「演習」、「理論」と「実践」のバランスをとる必要がある。</p> <p><b>受講生</b> 「演習を増やすべき」、「実践を増やすべき」の意見があった。特に、一般コース。</p>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 講義と演習や理論と実践などのバランスのとれたカリキュラムになるよう改善に努める。</li> <li>○ ただし、一般と総合の両コースに参加する受講生が多く、総合コースの演習を一般に追加することは困難。</li> </ul>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般コース、中堅コースに演習を増やす。</li> <li>● 他の講義でカバー可能なものについては、その旨講師に要請する。</li> <li>● 自治体の災害対応経験者などの実践的な講義を加える。</li> </ul>
		<p>● 重複したテーマや内容をなくす必要がある。</p> <p><b>受講生</b> 話の内容が重複しているものがあった。</p> <p><b>事務局</b> 講義内容の分析の結果、重複しているテーマがあった。</p> <p>&lt;例&gt;</p> <p>一般：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「大規模災害における行政対応の実態」（講師二名で実施）は、話の内容が重複した。（受講生の意見）</li> <li>・ 「危機管理総論」は、「減災社会を築く」、「災害法体系」と重複。</li> <li>・ 「地震災害史」は、自然災害全般ではなく、特に地震についての災害史であった。地震に関する講座は他に2コマあり、一部重複した。</li> </ul>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ コース内で、同じ講義テーマが複数存在するものや、講義内容が重なるものについては、極力、講義内容に重複が生じないように調整する。</li> <li>○ 講義テーマ・名称についても、重複が生じないように考慮する。</li> </ul>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コース内で同じ講義テーマや講義内容が重なるものについては、極力、重複が生じないように調整する。</li> <li>● 追加すべきテーマを踏まえて、講座の入れ替えを検討する。</li> </ul>
		<p>● 全体討論会の内容の改善が必要。</p> <p><b>受講生</b> 全体討論会の意義は何か。内容の改善が必要。</p>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災業務上で抱えている問題の解決や、意欲の向上につながるよう、全体討論会の内容を改善する。</li> </ul>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受講生が経験・課題を持ち寄り、ミニプレゼン+受講生同士+内閣府+有識者等の演習があるとよいのではないか。</li> </ul>

	検討課題	第3四半期での課題・指摘事項	対応方針（案）	第4四半期の研修への反映（案）
2	講師の選定	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 効果的な研修にするために、より適切かつ多様な講師が必要。</li> <li><b>受講生</b> 実際に災害対策本部で指揮をとった首長や防災担当者から体験・事例を聞きたい。</li> <li><b>内閣府</b> 講師は第3四半期と同一者にこだわる必要はない。</li> <li><b>事務局</b> スケジュール調整が困難で優先度の高い講師を選定できないこともあった。</li> <li><b>事務局</b> 内閣府講師が全くないコースがあった（一般、幹部）。</li> <li><b>事務局</b> 被災自治体職員等、災害対応経験者の講師が少なかった。</li> </ul>	⇒ <ul style="list-style-type: none"> <li>○ スケジュール調整が困難であったためにテーマに対し優先度の高い講師の選定ができなかった講座については、改めて、講義の実施を依頼するなど、よりよい講師の設定に努める。</li> </ul>	⇒ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 早期の講師調整に努める。</li> <li>● 行政対応事例等では第3四半期と異なる自治体の講師も選定する。</li> <li>● 災害対応経験自治体職員の講師を増やす。</li> <li>● 一般コース、幹部コースにも内閣府講師を置く。</li> </ul>
3	カリキュラムの流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各コースのカリキュラムの流れ（講座の順）が不自然。</li> <li><b>事務局</b> 講師のスケジュール調整がつかず、各コースの講義の順序が不自然になるケースがあった。</li> </ul>	⇒ <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各コースの実施にあたっては、極力一連の流れの中で受講生が学習できるように、カリキュラムを設定するとともに、講師のスケジュール調整に努める。</li> </ul>	⇒ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一連の流れの中で受講生が学習できるように、カリキュラムの設定及び講師調整に努める。</li> </ul>
4	講義の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習効果を高めるための教育方法の工夫が必要。</li> <li><b>検討会</b> 教育手法として学習効果の高いアクティブ・ラーニング型で講座を進めることを基本とすることも重要。</li> <li><b>事務局</b> 講師による一方的な講義の場合、受講生の集中力が低下する例が見られた。</li> </ul>	⇒ <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習効果の高いアクティブ・ラーニング型で講座を進めていけるようにする。</li> </ul>	⇒ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各講師に対し、受講生の能動的な学習をはかる教授を行ってもらうようお願いする。</li> </ul>
5	時間配分	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 単元あたりの時間配分の見直しが必要。</li> <li><b>受講生</b> 1コマを急がなくて、ゆっくりした時間配分で受講したい。</li> </ul>	⇒ <ul style="list-style-type: none"> <li>○ テストの実施方法とともに、単元あたりの時間配分を見直す。</li> </ul>	⇒ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 講座内で実施していたテストを中止し、その時間を講義や質疑応答に充てる。</li> </ul>
6	テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>● テストの位置づけ、実施方法の見直しが必要。</li> <li><b>受講生</b> テストの必要性や扱いについての疑問が多い。</li> <li><b>事務局</b> テストに時間がとられ、講義時間が不足したり、質疑の時間がとれないケースがあった。</li> </ul>	⇒ <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各講座終了後のテストについては、その意義・方法を改めて整理し、講師に対して事前に十分伝えるほか、各講座で行うテストの進め方の統一をはかる。</li> </ul>	⇒ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 例えば最終日に簡易な確認テストを実施する。またはテストを復習の教材と位置づけ、講義後に配付する。</li> </ul>
7	アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートの量・内容の見直しが必要。</li> <li><b>受講生</b> アンケートが多く、負担感がある。</li> </ul>	⇒ <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケートの活用目的等について改めて整理する。</li> </ul>	⇒ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受講生に負担の少ないアンケートの質・内容にする。</li> </ul>
8	ネットワーク・交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人的ネットワークがより広がるための交流の機会が必要。</li> <li><b>受講生</b> 初日にグループワークや懇親会があるとよい。</li> <li><b>受講生</b> 講師との交流時間をもう少し設けてほしい。</li> <li><b>受講生</b> 人的ネットワークの継続・広がりが持てる企画が必要。</li> </ul>	⇒ <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 懇親会は、できる限り初日に実施する。また、当日の講師にも声をかけるなど交流が活発になるよう工夫する。</li> </ul>	⇒ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本的に、懇親会を各コース初日時に実施する。</li> <li>● ネットワーク・交流の場を増やすため、演習を増やすとともに、全体討論会の開催手法を工夫する。</li> </ul>